

真宗大谷派ハンセン病問題に関する懇談会 第4連絡会

ハンセン病問題公開学習会

外島保養院の歴史に学ぶ

●外島保養院は、1909年、神崎川河口（現大阪市西淀川区中島付近）に、第三区連合府県立療養所として開設されました（大阪府知事主管・定員300名）。大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県、三重県、岐阜県、福井県、石川県、富山県、鳥取県の2府10県のハンセン病患者を隔離収容することを目的とする療養所でした。●1934年9月21日、外島保養院は、近畿地方一帯を襲った室戸台風の大雨、暴風、高波により施設は壊滅し、入所者173人のほか、職員とその家族14人、工事関係者9人の計196人もの尊い命が奪われました。●地域からハンセン病患者を排除し療養所に追い込んだこと、風水害の危険の高い地域に療養所を設置し続けたこと、室戸台風で多くの犠牲者を出したこと、そして再建すら許さなかったこと、これはまぎれもなく、国、地方自治体、市民が一体となって行った「無らい県運動」と偏見差別が引き起こしたものです。●私たちは「自分たちの地域に療養所がないことの責任」を改めて自覚し、二度とこのような偏見差別が起こることのないよう行動しなければなりません。この度の学習会は外島保養院の歴史に学び、ハンセン病問題に対する自覚と行動の契機となることを願いとし開催いたします。



2015年 **5月13日** (水) 開催時間16:00~18:00

会場：難波別院同朋会館1階「講堂」

講師：三宅 美千子さん（外島保養院の歴史をのこす会共同代表）

宮良 正吉さん（関西退所者原告団いちょうの会会長）

主催：真宗大谷派ハンセン病問題に関する懇談会 第4連絡会

協力：真宗大谷派 大阪教区